

R18
— FOR —
ADULT
ONLY



MosaicsReon



Day 1

00
13

4

4

はじめての
1=4
と36

閲覧注意

本作は、一花のキズナストーリーおよび「Triptraptrain」の物語を軸にしたパラレルワールドとして制作されたものです。
そのため、上記の内容を事前にご覧いただくことで、より深くお楽しみいただけるかと思います。

作品内には作者本人の主観的な解釈が多く含まれており、本編では描かれなかった一花(特に戦闘面)の補完を目的としています。
きっと、一花を愛する皆さんなら、私と同じように、彼女と先生の関係性や、複雑でありながらも魅力的な一花の内面に興味を持っていたいただけるはずです。

なお、本作には戦闘や感情的な衝突など、特定の描写が含まれている場合があります。
ご自身の心の準備ができているかを確認の上、お楽しみください。



正直、あの時のこと——
思い返しても、
やっぱり現実味がなさすぎた……



カスミが完全に
主導権を握った

公用カバンの中から
何かが碎ける音が
聞こえてくるまで——

俺……いや、
その場にいた誰もが、
まさかこんな展開に
なるなんて思っ
ていなかったはずだ



いっ……し
イチカ!?



あっ……
撃っちゃった
っす

あはは……
なんて言えば
いいっすかね



それよりもっ！
カバンの中の
モノがっ……？

ごめくん、ちょっと
イラっとしてて、
つい我慢できな
かったっす……

あはは……
マジっすね
全部ぶち
壊しっすわ



もう、
終わっちゃって感じっすね……
うん、ここまで来たら

せ、せめて落ち着こう…
まだ言い訳の余地は
あるはずだ



なんて言
おっかね

私だけ終わりで
なんかちよっと
ズルいつすよね……

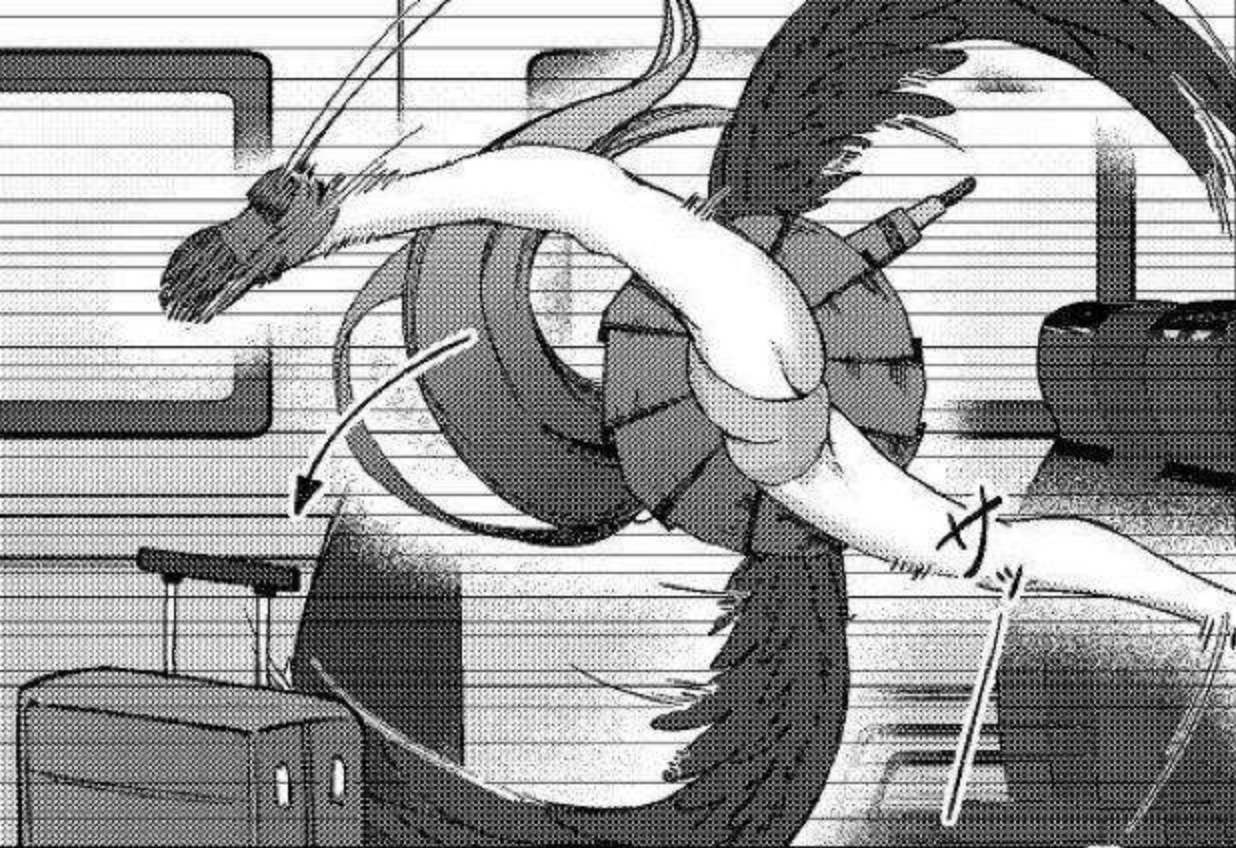
じゃあ
みんなまとめて

私と一緒に
地獄まで堕ちても
らうつすよ♡

ちよっぴん♡
おす♡

ダンダン

じわじわ



悲鳴と叫び声、
そしてイチカの
楽しげな笑い声が、
電車中に響き
渡っていた



人を巻き込むのが
得意なカスミとは、
まるで対照的だった…

任務の制約もなく、
誤射を気にする必要も
ない状況のイチカは—



彼女は一人で
全員を倒した

すべてが
スムーズだった

熟練の動きで、
決定的な弱点を
的確に突いた

無駄な動きも
遅れも
一切なかった





不幸にも傷ついても、
条件反射で相手に
噛み返そうと考えていた

バン
バン



普段は他の
問題児と比べても、
イチカはいい子だった

他の生徒が倒れる音とともに、
銃声がまるで私に思い
出させるかのように響いた



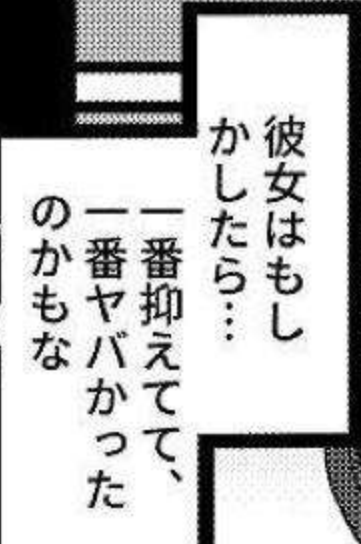
捕食者のように、
地獄行きのこの列車の
中で舞い踊っていた

やった!



でも——
彼女もやっぱり、
この学校の生徒
ヒロイン
なんだよな

イチカは、
間違いなく
天才だった



彼女はもし
かしたら……
一番抑えてて、
一番ヤバかった
のかもな



私…
何やってん
すかね…

ノリで先生に「勝負だ!」とか
言っちゃって…
誘ったのも私なのに…
マジで…アホっすよね、私…

最初は確かに、
ギタリストたちの情熱に惹かれて
「興味」を持っただけっすけど、
でも、もしそれだけだったら—

これも私の数ある
「興味」のひとつに
すぎないっすし、
大したことじゃ
ないっすよね、
きつとすぐ誰かに
あげちゃうんすよ

アイツ
だって

先生、
遅いっすよ…

この間、ホントに
いろいろ
あったっすね

あのギター…
なんで、
売れなかったん
すかね…

ただの「興味」の
一つっすよ…

興味がなくなっただって
わかってたのに、
それでもなんか、
捨てるのは
惜しかったんすよね

なんかあった
っすか?

任務ぶち壊しそうになったり、
ギターの練習したり、
先生と駆け引きしたり、
思いつき甘えたりしたっすね…

みんなはいつも、
私のこと「なんでも
上手くできる」
って褒めるっすけど、
なんでもできるだけじゃ――

やりたいことがハッキリ
してる人のほうが、
よっぽど輝いて見えるっす

私も、本気で何かを
好きになりたいっす
私だけの、
個人的なこだわりが
ほしいっす

私は正義の味方
っすからね
ずっとな
信じてたっす

赤いスカーフに、
正義の宣言
ヒーローみたいに
なりたくて、
カッコいい
っすよね

そんな恥ずかしい理由で、
前髪をバツサリ切って、
ヒーローの証みたいなの
赤い
ヘアピンまでつけたっす

変わろうって決めて、
そうやって見せたっす
少しずつ頼られて、
信じてもらえるよう
になったっす

全部がうまく
いってるって、
そう思った
矢先だったっす

ちょっとイラついて、
全部ぶち壊すところだったっす
怖かったのは……
そのとき頭に浮かんだ考えが、
あまりにも軽くて……



みんなはいつも、私のこと「なんでも上手くてできる」って褒めるっすけど、なんでもできるだけじゃ

やりたいことがハッキリしてる人のほうが、よっぽど輝いて見えるっす

私も、本気で何かを好きになりたいっす私だけの、個人的なこだわりがほしいっす

私は正義の味方っすからね、ずっとそう信じてたっす

赤いスカーフに、正義の宣言、ヒーローみたいにカッコいいっすよね

そんな恥ずかしい理由で、前髪をバツサリ切って、ヒーローの証みたいな赤いヘアピンまでつけたっす

変わろうって決めて、そうやって見せたっす、少しずつ頼られて、信じてもらえるようになったっす

全部がうまくいってるって、そう思った矢先だったっす

ちよつとイラついて、全部ぶち壊すとこだったっす怖かったのは……、そのとき頭に浮かんだ考えが、あまりにも軽くて……



私……ほんとに「正義の味方」が、正義実現委員会好きだったのになって、それとも

正義実現部の私って、ほんとに大事だったのになって

象徴みたいな飾りや肩書きが増えても、心から何かに「執念」を持ったことなんて、一度もなかったって気づいた時

気づいたよ……「イチカ」って、キャラは、

私……ほんとにイチカって

あの時……いや、もしかしてずっと前から、

私、ずっと「正義の味方」のモノマネしてたっすよね

疑問はっか、増えてくっす

その「自己認識」のバンドラの箱、開けちゃったっす



最初から最後まで、結局ただのモブだったんだって……

私、
もう……
いいかって

あの時……いや、
もしかしてずっと
前から、

私、ツルギ
ずっと「正義の味方」の
モノマネしてた
だけっすよね

私……ほんとに
「正義の味方」が、
正義実現委員会
好きだったのになって

それとも

正義実現部の
私って、
ほんとに大事
だったのになって

象徴みたいな飾りや
肩書きが増えても、
心から何かに「執念」を
興味
持ったことなんて、
一度もなかったって
気づいた時――

疑問ばっか、
増えてくっす

その「自己認識」
のパンドラの箱、
開けちゃったっす

気づい
たよ……

「イチカ」
って

キャラは、

最初から最後まで、
結局ただのモブ
だったんだって……

イチカ……

え、先生？
どうかしたんですか？
遅れてくるなんて
珍しいですね……

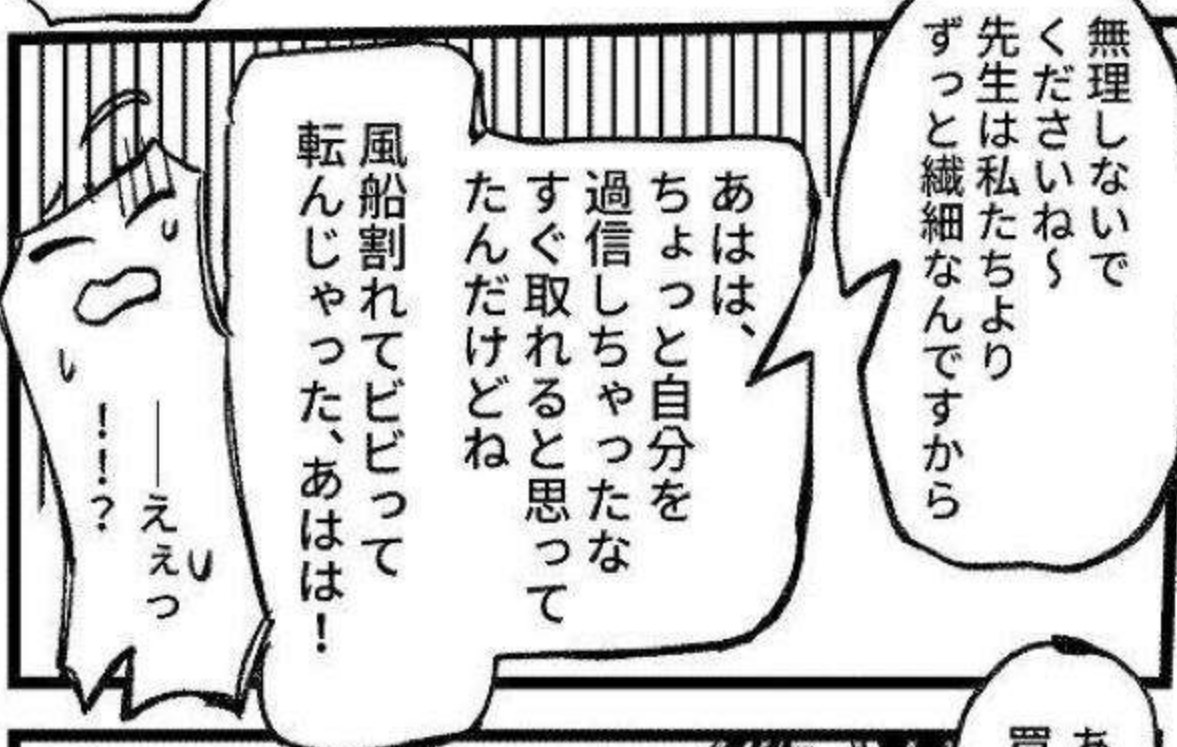


悪い、一花
待たせた

ちよ、先生よりこっちっすよ！
なんで先生、こんな姿に——！？



え
！？



無理しないで
くださいね
先生は私たちより
ずっと繊細なんですから

あはは、
ちよっと自分を
過信しちゃったな
すぐ取れると思って
たんだけどね

風船割れてビビって
転んじゃった、あはは！

ええっ
……！？



風船取ろうとして
木に登ったら、
落ちたんだよ

あらら……



あとで新しい風船
買ってあげたよ

バカかよ！

ちがつ……！
最初からそうす
ればよかった
のに……



ダサいだろ
ほらほら、
先生を褒めて……！

キラ

キラ

すっごーい
さっすが
せん・せ
棒読み



そんなことないさ…先生として、当然のことだよ

真剣な
表情で

ぷっ
…!!

あははっ
ずるいっすよ、
先生……!!

だろ? だろ?
このネタ、けっこう
時間かけたんだよ

違うさ
俺だって、好きってだけじゃ
動けないんだよ

「必要とされた」
ってだけで、
体が勝手に動いち
まったんだよ

だから言ったじゃん
大人ってほんと
ズルいよね
こういうの好きだよね

一花になら、きっと
わかってもらえる
「助けたい」じゃなくて、
「助ける」
そんな感じなんだよ

まあ、
木から落ちる
ことはないけどね

だから言った
じゃん……

大人ってほんと
ズルいよ……
先生……



あの時も、
先生を誘った時も――

また先生のことも
飽きちゃうんじゃないかって
ずっと怖くて

だったらもう
先生には会わない
ほうがいいって

せめて、キレイな
思い出のままで……

でも、あんなにワガママ
ばかりだったのに
先生は毎回、毎回
優しくしてくれた！

そんなんじゃ、また
先生に甘えたく
なっちゃうじゃん……

毎回、
一番弱いところを
ぎゅって掴まれて
逃げられなく
なるんすよ……

ズルいっすよ……
そんなのじゃ、アタシ、
もっと……もっと
先生のこと手放せ
なくなるじゃんか……

どうしたら
いいの……
先生……

イチ力は繊細な子だから
成長する中で、どうしても
いろんなことを
考えすぎちゃうんだよね

周りのみんなが
少しずつ前に
進んでいく中で
自分だけが取り
残された気がして――

きっと、不安で
悔しかったよね

でも先生は、
イチ力は今の
ままでいいって
思うよ

えっ？

あ、もちろん諦めろって意味じゃないよ
イチカは今のままで、ゆっくり探せばいいんだよ

いろんな人と出会って新しいことを学んで新しい恋をして――
転ぶこともあるかもしれないけど
また探せばいいんだよ

先生が言えるのは、イチカはきつと自分の居場所を見つけれらるってことだよ

だからそれまでは、焦らずに、いっぱい失敗していいんだよ

悩んだり、迷ったり、全部投げ出したくなるのって青春の特権だからね

不安になったときは、遠慮なく先生に甘えていいんだよ
イチカが先生の生徒でいる限り、ずっとそばにいるからね

先生にとっては、「探さなきゃ」って思いに縛られずにもっと自由に笑ってるイチカの方が、よっぽどイチカらしいよ

これは……
どういう意味？

あつ……それは
ナイショ

えっ!?

でも、ちょっと安心したでしょ？

うーん……。卒業しても、先生に甘えてもいい？

ずっとお前の先生だよ

先生が死んでも？

死がふたりを分かつまで！

うううう
やっぱり大人ってズルいよ……

先生として、当然のことだよ



先生がそう言ったんすよ、
もっと自由に、
好きにしていって〜

せめて
ゴムで

じゃあ〜(無視)
今日は一日で〜

先生はずっと
私と遊ん
でくれるよね？

いった！

一花！
無理しなくて
いいんだよ



大丈夫っすよ、先生…
だって、まん…こもう
ぬるぬるっすから、
あんまり痛くないっすよ…

一花の…
めっちゃ
キツイ…

もう大丈夫みたい
っすね…
じゃあ、つづき、
いっちゃいますね
せんせい…♡



んっ！あれ？
なんでえ…！？

せ、先生…！！
ちよ、ちよと
待って！
動かないで
くださいっ…！！

為師はずっと
動いてなんか
いないぞ？

ぎゅう





動かないで
って…
言ったのに…

ブツ
ブツ
ブツ



ごめんね、先生…
ちゃんと気持ち
よくさせて
あげたかったのに…

なのに…
気持ちよくなって
たの、アタシ
だけだった…

あんなヘンな声
まで出しちゃって…



大丈夫だよイチカ
先生はとっても
気持ちいいぞ

やだっ！うそっ！
だって先生、まだ
全然出ない
じゃん…

イチカはただ
気持ちいいって
感じるままに
任せればいいんだ

抜かないで！
そのまま中に
入れておいで！

少し休めば
平気だよ

ぬちゅ



だからなつまり、
すべてのことは
表裏一体ってことだ

もし本当にいつか先生に
飽きたら寂しく感じるけど
それはつまり
先生の責任ってことだ

先生を好きでいさせられなくて
飽きてしまったら、
もっと幸せになれるんだから
その時は思いっきり嫌ってくれよ

まあそんな簡単に先生から
離れられるなんて思わないでくれよ、
だって先生もずっと
お前と約束してるからな！

これが俺から
お前への
挑戦状だ！

「死が二人を
分かつまで」
だから俺は
ずっとお前に
絡み続けるぞ！

うっ！

「大嫌い」って
言えるなら
言ってみろよ！

ド
バ
ッ

ビ
ク

め
ち
ッ



えっ！
イツた？

はぁー！

弱すぎだろ
俺は何もしてないのに……



先生、それって……
告白っすか？



うん、挑戦状告白だよ。



告白で
「嫌いになってもいい」
とか聞いたこと
ないっすよ！
サイアクっすー！

告白されたくらいで
イクとか聞いたこと
ないんだけど？
あんたのマンコ、
ほんとポンコツね。

もっと
しょっか……♡

大丈夫か？
さっきまで……

さっき先生も
約束したでしょ？

今日は一日中……
ずっと一緒に
遊んでくれるん
だよな？

ぬる……

最低……w

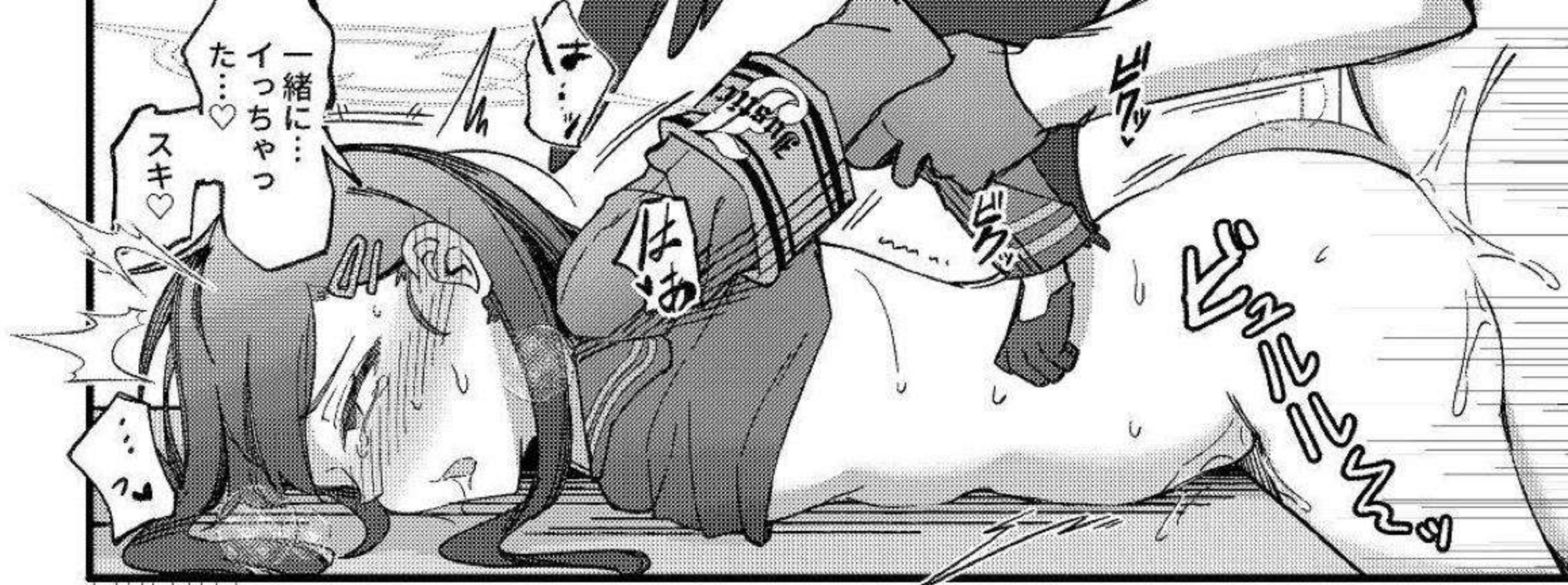
あはは
www

ねえ
先生……

ん？

責任、
取ってね……

ぎゅ♡
ん♡







イチカのせいだぞ
俺を誘惑して…

あつ…!!
あつ…!!
あつ…!!

大きく…
なってる…
…?

あ♡
あ♡
あ♡

奥までぎゅうぎゅうに
詰まってる…♡
シュキ♡♡♡…♡

先生…♡
止まんない…
来る…♡…!!

俺も…
もう出そうだ

一緒に
イこう、
イチカ…

びしょ♡
びしょ♡

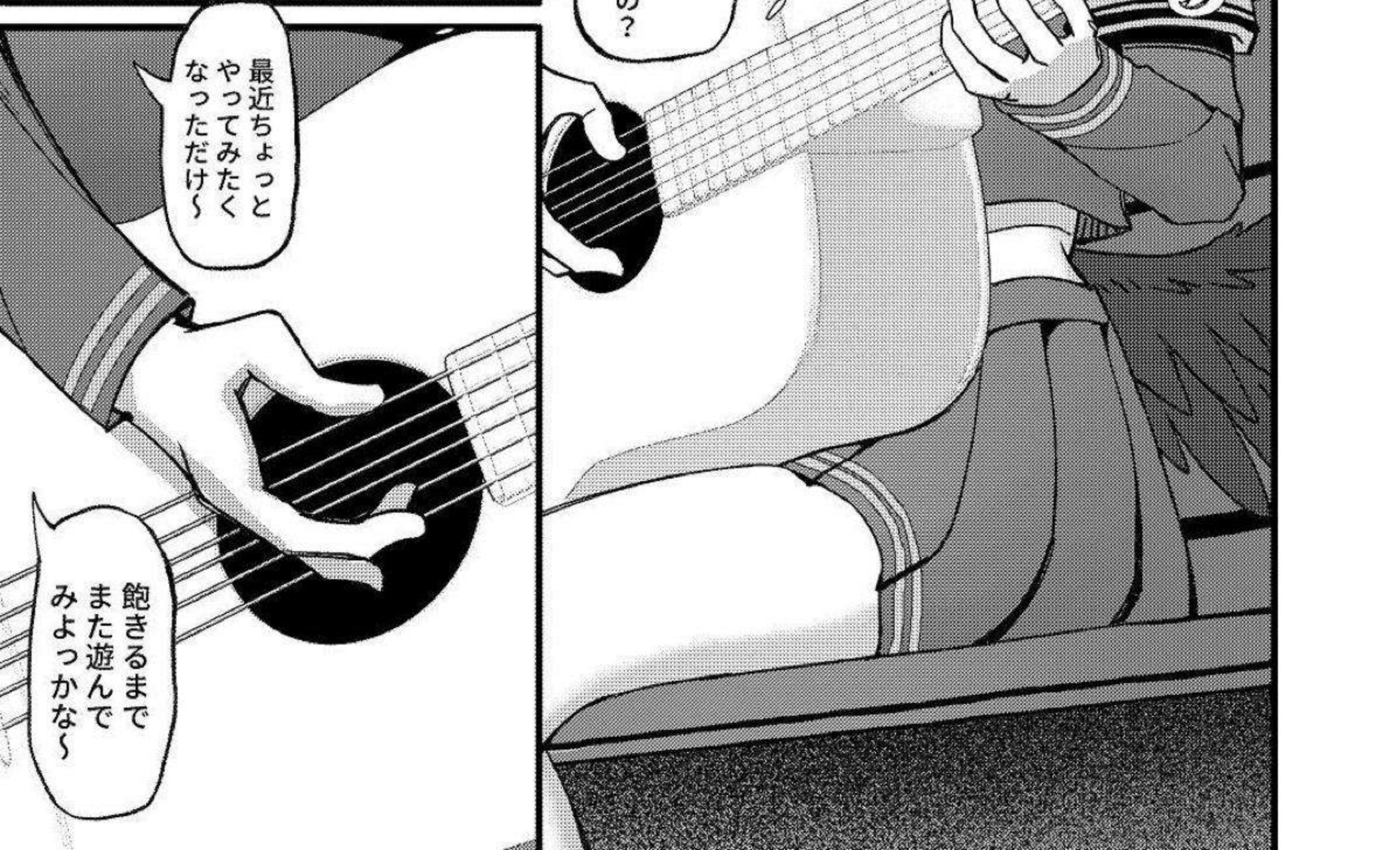
びしょ♡
びしょ♡



どうだ、イチカ？
まだ飽きれると
思ってるのか？

やっぱり
先生が…
サイテー…♡

本当に…
「大嫌い」…♡





あら〜でも
やっぱ最近
は飽きちゃっ
たっす〜



えっ!?
結局まだ嫌いな
の?

あはは、
別にそんな
じゃないっ
すよ〜



なんかさ、
また弾きた
くった時に

きっと手が
伸びちゃう
っすよ〜♡



完

あとがき

はじめまして、モザイクです。ここまで読んでくださって本当にありがとうございます！！

ついに...ついにコミケに参加することができました！まるで夢のようです！！

これは、私が一度も行ったことのない日本のコミケに参加するために描いた、初めての正式な成人向け同人漫画です(...とはいえ、この時点ですでにもう一冊出してましたがw)。

正直なところ、まだまだ経験も浅く、漫画はほぼ独学で描いてきました。
この本を手にとってくれたあなたに、少しでも満足していただけたら嬉しいです！

現在の目標は、漫画家として日本の漫画市場で活動できるようになることです。
主に成人向けやギャグ漫画を中心に描いており、
このようなお仕事をもっと増やしていきたいと考えています。
もしご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけください！！

そして、日本でのイベントでスペースを手伝ってくれた友人には特別に感謝を伝えたいです。
彼女がいなければ、このチャンスを掴むことはできなかったし、
私の作品が日本の皆さんに届くこともなかったと思います。
本当に本当にありがとう！！

By the way、ここまで読んでくれて、もう一度感謝します。
私のこの遠い夢のために力を貸してくれてありがとう。
そしてもちろん、この作品を気に入ってくれたら嬉しいです！

作者：モザイク レオン Mosaics Reon
委託/Email：mosaicsreon@gmail.com
Pixiv：12969334
X(旧Twitter)：https://x.com/ReonMosaics
日付：2025.08
印刷所：SUNGROUP

※本作品には成人向けの内容が含まれています。
未成年の方は閲覧をご遠慮ください。

X QR:





天 / 弱

ama no jaku